

NPO 法人

第46号

# 芦安ファンクラブ通信

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ

事務局 南アルプス市芦安芦倉 1589-8 大滝要造

TEL 055-288-2531 FAX 055-288-2553

URL <http://catv.nus.ne.jp/~afc3193/> Email [afc3193@nus.ne.jp](mailto:afc3193@nus.ne.jp)

## 南アルプス開山祭in広河原

# 開山セシモニー“蔓払い”大天狗役をもらって

芦安ファンクラブ会長 花岡利幸

10分かそこの蔓払いのセシモニーを終えてロッカー室に戻っての最初の一言は「ああ、面白かった」でした。

しかし、山案内人衆姿のにわか仕立ての大天狗役への初めての挑戦は、私にとって今まで経験したことのない緊張の時間でした。「出陣したら大天狗がこの儀式を仕切るのだ。知事であろうと、市長であろうと、来賓者であろうと、そこに集まった者ども天狗に倣え、の大きな態度で行け」とのアドバイスで腹が決まりました。経験豊かな小天狗の堀内先生、渡辺さん、そして前回大天狗の宮下さんのご指導に支えられて、何とかやることができました。

今日はいい天気。てっぺんに御幣おんべひらめく斜交はすまい門柱。それを角錐状かくすいじょうに塞ぐ蔓。それを絞った頂点しつぽんに蔓切りの舞台うたいが設してあります。舞台に立てば御幣の先に北岳が聳たえて見えます。

舞台から三步下くだがって、手持ちの御幣を頭上に捧たげ、向こうの御幣に合わせれば45°前方上まへに

北岳山頂きたがけを仰あぎ見みます。その姿勢で、にわか仕込みはらの「祓はらいたまえー、清きよめたまえー」とやります。清めタマエーが、口がまわらなくてうまく言えませぬ。次にこれまたにわか仕込みの請願のりの祝詞のりとを読み上げます。何とかパスしました。

最後に三步進すすんで蔓切り舞台まわに立ち、昔取むかしった杵柄きぎらで（ホントに、昔、暮くれの餅もち搗うきで15日じふごを搗ういた経験きんがあります!）、「エイ、エイ、ヤーッ!」と入魂まじかり一投ひとの鉞きり一発ひとで蔓を切り開ひらき、開山ひらすることができました。この鉞きりには、姿、重おもさ、切れ味、惚おぼれ惚おぼれさせられます。



こうしてみると蔓払いのセシモニーだけでも舞台づくりに大変な努力が掛かっていることが分かります。開山祭開催ひらに関係かした市行政しせいやNPO 芦安ファンクラブの皆さん、ご苦労様ごでした。



閑話休題。

東京オリンピック誘致きよに国民の関心度かんしん合いが決め手の条件じょうになっているそうです。同様に南アルプスが目標とするユネスコ・エコパーク認定にんや世界自然遺産登録きせの場合も、地元住民じよんの生活文化せいかくにおける山との係わりが重要条件じょうになっています。開山祭はその一環いっを彩いろる役割やくを果たたすことになるでしょう。夏山シーズンなつの開幕ひらです。





# キタダケソウ観察会報告

芦安ファンクラブ 望月泰孝

平成24年6月30日（土）晴れ～7月1（日）曇りのち雨

広河原の開山祭は、6月最終土曜日に行われている。今年は30日で、史上最も遅い開山祭ということになった。因みに、お隣長野県伊那市長谷の開山祭は、4月25日に行われた。広河原でももう少し早い開山祭が望まれる。

恒例の蔓払いの今年の案内人は、芦安ファンクラブ会長の花岡先生が自ら引き受けられた。梅雨の晴れ間に恵まれ、北岳山頂が姿を見せ、実に爽やかな天候のもとで行われた。

12時に広河原山荘集合、一般参加者は昨年より1名増えて7名、ファンクラブ1名に環境省の中村保護官が加わり総勢19名となった。コースは、昨年の台風で大樺沢が被害に遭い二俣までの登山道が使用禁止になっているので、白根御池小屋経由のピストンに変更した。

広河原山荘を12時15分に出発。10分ほど歩いた草地に、例年咲いている刈刈草が見当たらなかったのは残念、急坂を蝉や小鳥の囀りを耳にしながら進む。第一ベンチ、第二ベンチ及び急坂を登り切ったところで休憩を採る。森林帯の登山道なので花はあまり目立たないが、良く探すと、サンカヨウ、エンレイソウ、ツバメオモト、ミヤマハタザオ、クルマバツクバネソウ、サンリンソウ、ギンリョウソウ、マイヅルソウ、ミヤマエンレイソウ、カラマツソウ、コミヤマカタバミ、ミヤマキンバイ等の主に白系統の花が観られた。



白根御池小屋に15時に到着したのち、御池周辺の植物観察をしてから小屋に入り、大広間での懇親会になった。高妻管理人から缶ビールの差し入れがあり、中村保護官からは、前勤務地の知床の原酒、その他それぞれが持ち寄った酒やつまみで楽しい宴会が行われた。宴たけなわになる頃、国立環境研究所の名取俊樹先生が飛び入り参加され、キタダケソウの講話をいただいた。（次ページ参照）

翌日、5時40分に小屋を出発した。大樺沢の雪渓は、二俣よりかなり下部まで続いて、二俣直ぐ下の大岩も雪に隠れていたもので雪の深さは、5m以上はあるだろう。

二俣からは雪渓が続き、夏道は隠れていて、アイゼンを着けての行動となった。雪渓上は、僅かな踏跡を辿るが、傾斜がきついので一歩一歩ゆっくり登る、それに落石にも注意しなければならない、雪渓には、岩や木の根などがいっぱい溜まっている。暫くすると霧が湧いてきて、ついに、雨が落ちてきたので、雨具を着用しての行動となる。しかし、雨足はあまり強くならなかったのが比較的順調に進んだ。八本歯尾根に取り付く時アイゼンを外した。

八本歯コルに8時半到着、クロユリが咲き始めているのを確認、登山道わきには、ハイマツに交じってキバナシャクナゲが綺麗に咲いていた。

9時10分にトラバース道に着くと、雨は小降りになって、キタダケソウは丁度満開で迎えてくれた。他にも、オヤマノエンドウ、ハクサンイチゲ、キンポウゲ、チシアマナ等が色とりどりの花を咲かせていた。



キタダケソウを写真に撮影するなど堪能してから下山、トラバース道分岐点で記念撮影をした。残念ながら視界は広がらなかったが、多くの花に満足しての下山。雪渓は特に上部二俣付近は傾斜がきついので慎重に下山した。

12時に白根御池小屋に戻り、弁当を温めていただき、熱いお茶を飲んで昼食にした。一時間ほど休憩をして下り、ゴールの広河原山荘に14時45分全員無事に到着した。



# ～キタダケソウの観察・調査から～

国立環境研究所総務部シニアスタッフ 名取俊樹

キタダケソウの花を目当てに多くの登山者が北岳を訪れることは余りにも有名であり、多くの紹介文などが出されています。しかし、キタダケソウの発見が比較的新しいことや低地での栽培が多少難しいことなどにより、キタダケソウを研究対象とする研究者は以外と少なく、我々が持っているキタダケソウに関する知見はそれほど多くはありません。私は幸運にもキタダケソウを研究する機会に恵まれ、10年以上キタダケソウを観察・調査することができました。そこで、この機会に、キタダケソウの紹介文などではあまり書かれることがない観察・調査の視点からキタダケソウについて書こうと思います。

キタダケソウは「種の保存法」により北岳南東斜面に設置されている「北岳キタダケソウ生育地保護区」内だけに生育する遺存種であり、固有種、絶滅危惧種です。この場所は南アルプス国立公園の中でもあり、また、土地の所有者は山梨県です。そこで、調査を始める前に、環境省（自然公園法、種の保存法）と山梨県（恩賜県有財産内入林許可、森林法）それぞれに調査の許可申請を行わなければなりません（ただし、登山道は例外であり、登山道を歩いている限りはこれらの申請を行う必要はありません）。この申請が案外煩雑で面倒ですが、見方を変えれば、この面倒さがキタダケソウを守る一つの方法と言えなくもありません。しかし、法律だけでは守ることはできず、これらに加え山梨県の条例などを活用し、キタダケソウを含めた高山植物などの保護・保全を実践することが肝要であることはいうまでもありません。また、この面倒さは、従来の国立公園管理の考え方に通じており、環境省自然環境局のHPには「これまでの自然公園の保護は人間活動の直接的な影響を極力抑制する仕組みでしたが、これらの仕組みだけでは必ずしも対応できない事態が生じており、生態系を積極的に維持又は回復をしていく措置を講じていく必要があります」として、南アルプス生態系維持回復事業（平成23年度～平成28年度）が開始され、従来の国立公園の管理の考え方が変わりつつあることを感じます。

私は、おおよそ10年の間に、キタダケソウの開花時期や生育場所での土壌pHや温度の調査、キタダケソウの生育位置の測量やその地図化、さらに、キタダケソウの生育地外（茨城県つくば市）での栽培実験など、また、北岳やキタダケソウについての情報収集などを行ってきました。

その他、冬期の風速調査やキタダケソウ生育場所での雪圧調査、地吹雪の擦過力調査などは何回かチャレンジしましたが、結局満足するデータを得ることができませんでした。何れにしても、調査に用いる機材は、小型・軽量で、電源は必要としないか電池、しかも出来るだけ安価、さらに、北岳の厳しい冬期でも動くような様々な工夫が必要であり、調査の成否は機材の選択や工夫によるとも言えます。例えば、調査はまず現地での観察から始まることから、10年ほど前より、カメラで冬期の生育地の様子を撮影することを試みてきました。そして、2011年10月末に北岳山荘の外階段に設置したカメラにより北岳の冬期の様子の変化を初めて撮影することができました（下図）。その結果、例えば、キタダケソウ生育地付近で最も雪が多いのは4月頃だということが確かめられました。



また、私が心がけていることの一つは、調査による生育地の攪乱を極力少なくすることです。例えば、土壌pHの測定では、従来、現地土壌を採取する必要がありましたが、私が採用した方法は、土壌採取を行わず、現地土壌に直接pHセンサーを突き刺して測定するという方法で、その結果、キタダケソウはpH7.0付近で旺盛に生育しているものの、ハイマツに近いpH5.0付近でも生育していることが分かりました。

最後に、約10年間の調査のほんの一例を紹介致しましたが、これらの調査を続けることができたのは、地元におられる塩沢さんをはじめ、猪俣さん、森さん、仲田さん、清水さんなど多くの方から様々な情報や援助をいただいたおかげです。改めてお礼を申し上げます。また、これからもよろしくお願い致します。



登山教室「百花繚乱」報告

# 南アルプス芦安ファンクラブの登山教室に参加して

## 登山教室参加者 堀内民子

昨年の一月初旬、ひとり暮らしをしていた87歳の義母と暮らすために、主人と埼玉県から甲府に来ました。毎朝、茶道峠経由で小一時間歩き、「愛宕山子供の国広場」でのラジオ体操に参加し、その体操仲間の山好きな方々と、月に1~2度山登りをしています。今年の目標は、北岳登頂と心の中で決めていました。そんな折、「南アルプス芦安ファンクラブ」の登山教室を知り、早速に知人を通して申し込みました。

北岳登頂に成功したなら、以前から不安を感じている膝と右股関節の痛みが増して、これから先山登りができなくても後悔しないぞ、と思いつつ、登山日を心待ちにしていました。気になるのが当日の天候です。数日前までの天気予報は曇りのち雨。晴天より涼しく歩きやすくて良いかなと思っていたら、前日に梅雨明け宣言が。何とラッキー！

当日早朝、芦安山岳館に集合し、三人のスタッフの方から15名の参加者にスケジュールと注意点の説明がありました。あれ程喜び期待していたのに、初対面の方々のペースについていけないだろうかと、緊張感が増してきました。



石川さん、花輪さん、五十川さんの三人のスタッフが前後に付いて、全員に気配りしていただけるのが嬉しい。いよいよ出発。大澤沢の雪解け水の流れの音を聞きながら30分程歩いて衣服調整のための休憩。食糧を沢山入れたリュックの重さを反省しながら歩いている道に落ちていた白い花びらが「バイカウツギ」と教えていただく。「タカネグンナイフウロ」「ミヤマハナシノブ」も。

登り始めて1時間30分で沢の中央に雪渓が現れ、アイゼン着用となる。土まみれの雪渓を歩きながら、冬季の純白な景色を想像すると見てみたくなる。北岳山頂と真っ青な空、足下の涼しい風を味わいながら50分程度で二俣に到着。アイゼンを外し、軽くなった足に喜びながら次の目標の雪田まで。雪の田んぼってどんなだろう？

いよいよ花の種類が多くなる。主演女優を想わせる、たった一輪のタカネバラ、すみれのようなキバナノコマノツメ、最近のニュースで話題になったハタザオ等々、スタッフの花輪さんの説明は、花ばかりではなく、鳥の名前、鳴き声にまで及ぶ。目細虫食い、ルリビタキ、姿が見えず残念！でも「ルリビタキだよー」との鳴き声でわかるらしい。ようやく雪田に到着。昼食となる。心地よい風をおかずにおにぎりが美味しい。無理をして持ってきた保冷剤付きのトマトとソルダムも旨い。



山小屋まで何時間かかるかわからないけど、少し軽くなったリュックを背負う。ますます、沢山の花が咲いている。花の名前を教えていただく度に、一つ覚え、二つ忘れてしまう。チョウノスケソウだけは、図鑑を見ているときにいかりや長介と覚えたので頭に残りました。

斜面一面に咲いたシナノキンバイの黄色畑を見た瞬間に、重かった足と心が一気に軽やかになり、これまでに体験したことのない感動を味わいました。頂上の姿とは対照的な優しいお花畑が、厳しい自然の中に、人の手によらず創られている素晴らしさにも感謝の思いが湧きました。

ハイマツとキバナシャクナゲの中から姿を見せてくれたライチョウ。すぐそこに聳えている仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山など、自分が登って来なければ見ることができない景色に心躍らせながら、13時30分、肩の小屋に到着。山小屋からの展望は360度のパノラマで富士山が「俺が一番高い山だぞー」と言っているようでした。夕食までの時間に室内勉強会があり、後でテストをされると言われヒヤッとなりましたが、冗談とわかり、ホッとしました。難解な「甲斐国誌」を分かりやすく解説して下さるのを聞きながら、スタッフの皆様の強靱な体力としっかり勉強されているのに感心いたしました。



その後、参加者全員の自己紹介があり、和やかな雰囲気の中で山小屋サービスの、良く冷えた飲み物で乾杯し、緊張感も解れてきました。夕食のやわらかなサバの味噌煮とやわらかく炊けたご飯が美味しい。19時過ぎに、きれいな夕焼けを見ながら、やさしい笑顔の山小屋の御主人に「北斗七星がすぐそこに見えるからね」と教えていただいたのに、星空を待っている時間、毛布の上に横になったら、そのままグッスリ眠ってしまい、北斗七星は夢の中でした。翌朝の朝焼けは、夕焼けより鮮やかな真っ赤赤・・・素晴らしい！！朝食後、頂上を目指して出発。ゴロゴロした岩場を登りながらも、岩の隙間に所狭しと可愛い花が咲いている。50分程度の登りで山頂へ。“やったあー！よくぞ来れた！”と自分を褒めたい気持ちになる。はるかに続く間ノ岳への尾根道を見ていると歩いて行きたい思いが湧く。“さあ、下りになるぞ”と心を引き締める(昨日の登りで足が疲労していることを忘れぬように)(道の両脇の花に気を取られ転ばぬように)。最初のキタダケソウとの出会いは、一人ずつ順に見なければならぬ程の、岩にへばりついたところでしたが、嬉しくて感動しました。



トラバース分岐の標識の奥にもキタダケソウ、シーズン終わりのキンロバイ、下山斜面のハクサンイチゲの白花、クロユリの群生地を楽しみ、花の百名山である「百花繚乱の北岳」を満喫し、感謝感激でした。

険しいバットレスを眺めながら、いくつもの梯子を下り、そしてアイゼンをつけても滑りやすい融雪歩きに苦勞しながら、広河原山草に無事到着。

優しい心遣いで案内して下さったスタッフの皆様、登山道を整備して下さっている皆様。温かく持て成して下さった山小屋の皆様、そして共に登った参加者の皆様、楽しいひとときをありがとうございました。心より感謝いたします。

次回も、あの景色と素晴らしい花々に出会えますように。



## 登山教室へのご参加をお待ちしています！！

平成25年に山梨県において第28回国民文化祭・やまなし2013が開催されるのに伴い、南アルプス市でも平成25年8月3日～5日に「南アルプス山岳フェスティバル」が開催されます。今年はその前年度にあたるため、第31回登山教室は、「南アルプス山岳フェスティバル山丈ヶ岳・栗沢山トレッキング」のプレ大会として行います。秋の高く澄んだ空の下、南アルプスの美しい紅葉を愛でながら、清々しい山歩きを楽しんでみませんか？また、山小屋では、仙丈ヶ岳と栗沢山についての学習会も企画しています。当日は芦安ファンクラブのガイドが皆さんを丁寧にサポートしますのでご安心下さい。多くの皆様と自然の素晴らしさを共有できることを楽しみにしています。

| 回数   | 開催日/集合時間                     | 目的地 / コース説明   | 集合場所/登山口  | 難易度           |
|------|------------------------------|---|-----------|---------------|
|      | 参加費                          |   | 宿泊        |               |
| 第31回 | 10月6日(土)～7日(日)<br>集合 午後1時00分 | 国民文化祭・やまなし2013「富士の国<br>やまなし国文祭」プレ大会<br>Aコース 栗沢山 (2714m)<br>Bコース 仙丈ヶ岳 (3033m)<br>1日目は芦安山岳館集合(13:00)し、北沢峠から山荘へ向かいます。(徒歩約10分)<br>2日目はガイドと一緒にそれぞれの山を歩きます。 | 芦安山岳館/北沢峠 | Aコース<br>初級者向き |
|      | 19,000円                      |   | 大平山荘      | Bコース<br>中級者向き |

※ 申込・問い合わせ先 芦安ファンクラブホームページ <http://catv.nus.ne.jp/~afc3193/>

南アルプス芦安山岳館 055-288-2125

おじゃまします!

# 山小屋なう～白根御池小屋～

新企画！NPO 法人芦安ファンクラブが指定管理を受けている南アルプスの山小屋の「今(なう)」を紹介します！  
第1回目は、標高2236m、北岳の中腹に建つ白根御池小屋です。



以前からあった小屋は雪崩によって流されてしまい、現在の小屋は7年前に新築されたばかり。木の香りのする明るく清潔な雰囲気の小屋です。今この小屋を管理されているのは高妻たかつまさん。今年で4年目になるそうです。奥様とアルバイトのみなさんと小屋を守っていらっしゃいます。高妻さんにお聞きしたところ、白根御池小屋の特徴はなんと言っても「水が豊富なところ」だそうです。小屋の水源は全く涸れることなく、冷たく清らかな水が流れ出ているそうです。小屋前にも登山者が自由に利用できる水があり、まさに“南アルプスの天然水”が味わえます。

高妻さんに聞いてみました。



**Q. 山小屋のお仕事をしていて良かったと思うことは??**

A. やっぱり、お客さまが「良かった」と言ってくれることが何よりですね。とにかくそれが一番です。これまでに泊まった小屋の中で一番だった、と言ってくださった方や、涙を流していただいた方もいて、そういうときは、やはりとても嬉しい気持ちになります。

**Q. 大変なところはどんなことですか？**

A. 大変…というよりは、最近、無理な計画をして登られる方が多いので、それが気になっています。場所柄、二俣あたりでケガをされる方が多いのでレスキューに出ることもあります。みなさんが安全に山を楽しんでもらえることを願っています。

**Q. 北岳を訪れる方にひとことお願いします。**

A. 北岳をゆったりと楽しんでください。頂上を目指すだけでなく、足元の草花や周りの景色にも目を向けて下さい。また、山小屋でも他の登山者やスタッフと語らいながら、小屋での生活も登山の一部としてじっくりと味わってほしいですね。

笑顔がステキな奥様にお聞きした、

**白根御池小屋にきたらコレ！！**

- No.1 ソフトクリーム (とにかくウマイ!!)
- No.2 冷やしめかぶうどん (ヘルシーで人気☆)
- No.3 オリジナル日本手ぬぐい (かわいい♪)

【おまけ】



白根御池に棲む、日本最高所のカエルちゃん。  
アズマヒキガエル。  
このサイズで大人です。

## お山のちょっと裏話。。。

先日、TV 局の取材で俳優のひらたけひろ平岳大さんの案内人となった高妻さん。その時のことをちょっとだけ教えてくれました。初めての登山だったという平さん。苦しい中でも頑張って登りきり、御池小屋に下ってきた時。小屋が見えた瞬間、それまでの俳優の顔から、ふっと素の青年の顔に戻ったそうです。その時の表情が、充実感と安堵感に満ちて本当にいい顔だった、今でもあの表情が忘れられないと高妻さんはおっしゃっていました。自然の大きさと温かい小屋の存在が人を素直な気持ちにさせてくれるのかなあと感じました。



# 笑顔の花が満開です！



多い時には 10 人のスタッフがいるそうですが、この日は 5 人の元気なスタッフが働いていました。



## 星 亮人さん 東京都出身

様々な経験を積もうと、これまでは海外へ行くことが多かったです。エベレストのベースキャンプやオーストラリアの山を歩いてきました。山小屋での仕事は初めてですが、とても楽しいです。海外と比べてご飯がおいしくてびっくりしました。ここでの経験を将来に生かしたいです。

## パトナさん ネパール出身

ネパールではトレッキングガイドをしています。芦安山岳館の館長さんがネパールに来た時にガイドをしたのがきっかけです。3年目になりました。山小屋は忙しいけど働くのが好きなのでとても楽しいです。高妻さんと奥さんがとてもいい人で料理や日本語を教えてくれるのが嬉しいです。



## 岡田有加さん 東京都出身

山が好きで、仕事を辞めてここに来ました。冷たくてきれいな水で毎日顔を洗っているのが肌がつるつるになりました(笑)。山小屋の仕事は夜明け前に起きるのが大変ですが、星空を眺められるのがイイです。流れ星も見ました！仕事で好きなのはトイレ掃除。気分が浄化される気がします。



## 大谷清歌さん 神奈川県出身

友達と一緒に山に行ったときに、素晴らしい自然にふれて、こんな自然の中で仕事をしたいと思ったのがきっかけです。お客さんとの会話がとても楽しいです。最近感動したのは、北岳の頂上に初めて登った事です。すごく辛かったけど、頂上に立ったときの感動はとても大きかったです。



## 渡辺賢二さん 山梨県出身

高妻さんとは以前からの付き合いで、時々お手伝いに来ています。登山暦は 20 年以上になります。この小屋は、清潔だし水は文句なし、料理も手をかけていて泊まっても中継点としても最高です。また、北岳はバスに乗っている間も景色がよく、小屋に来るまでも楽しめるのがいいですね。



**夜叉神峠、西口・東口登山道を整備しました。皆で登りに来てください！**

**登山道整備**

6月16・17・23・24日、のべ60名の人が参加して夜叉神峠東口へ続く登山道を整備しました。今回も一橋大学山岳部OB会「針葉樹会」とファンクラブ、さらに富士通アイネットワークシステムの皆さんが力を合わせました。平成23年7月には夜叉神峠西口への登山道整備を行い、今回は東口、これで夜叉神峠からの比較的低山でのコース整備を行うことができました。コース内には、シャラ、リョウブ、ウダイカンバ、アカマツ、イヌシデ、イヌブナ、ウリカエデ、ウリハダカエデ等樹種も多く、整備作業当日は葉が出るより先に花が咲くミツバツツジが目につきました。夜叉神峠からは、一般に鳳凰山へのルートに利用されますが、トレッキング気分です。西口・東口のコースをぜひお試しください。

**現役山岳部の参加にOB、大感激！！**

17日（日）には、現役の山岳部員が整備に参加してくれました。昨年の整備では現役の参加はありませんでした。その時のOBの言葉に、「今の学生は、授業を休んで山に行くことはあまりしないようです。わたしたちのときとは考え方が違うようです。」と、考え深いようでした。しかし、今回の現役参加で、OBの方は、まるで自分の子供に教えるように、やさしく手を取り、声をかけ指導をしておられました。さぞ嬉しかったのでしょう。次の機会にも、現役の皆さん、仲間を誘ってきてください。ファンクラブも待っていますよ。

**登山道整備のスナップ**



平行にして。階段づくりは難しいな。



何回も丸太をボッカして上げました



見事出来上がった階段です。これで下りも滑りません。



通称「ブヨ橋」、その云われは？

作業の精鋭たちです。出来上がりに自信を持っています。



一橋大学山岳部・針葉樹会のみなさんです。今日の作業はきつかったが、力を合わせた表情には、充実感がみなぎっています。



**怪奇現象・・・あなたはどう思う？**

それは6月17日（日）に起こりました。その日は、台風の影響もあり、午前中はシトシトと雨が降り続いていました。しかし午後からは空模様が変わり、南風も伴って一転して気温が上昇し蒸し暑くなりました。ファンクラブ員4名はコースのガシ場に橋を架けていました。大きな木を切り倒し現地調達をしてガシ場に沿えます。そこに丸太を番線で締めていきます。その時です。4名の作業員の体はブヨで覆われていったのです。さて後日、この4名におけるブヨ攻撃の症状が大きく分かれることになりました。肌の露出している部分が見るも無残な状況に腫れあがった者が2名、全く刺されなかった者が2名ときれいに2分割されました。刺された2名は皆さんもよく知っているJ、S氏：熊も逃げていくと言われている人、もう一人は前号で紹介したニューヒロインです。この2名、性別も血液型も年齢も骨格も違うのは一目瞭然、似ているのはお酒が好きということです。でも、他の2名もお酒は好きなのですが…。皆さんは、ブヨに刺された人と刺されなかった人がなぜ出たのか、どう推察されますか。整備作業の怪奇現象でした。記：堀内訓